

学

校

を

支

え

る

地

域

の

力

chikara

文部科学省

生涯学習政策局社会教育課

はじめに

図1 人吉市二中校区の学校

学校名	児童生徒数	PTA数
人吉市立人吉西小学校	349	268
人吉市立西瀬小学校	267	194
人吉市立中原小学校	410	309
人吉市立第二中学校	579	500
合計	1605人	1271人

人吉市は熊本県の南部に位置し、鹿児島県と宮崎県に接しています。まわりを九州山地に囲まれ人吉盆地に開けた町です。市内を東西に球磨川が貫流し、温泉と相良700年の

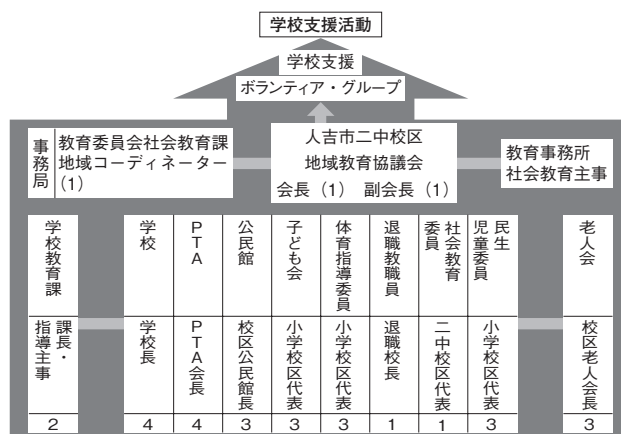
歴史と文化に彩られています。

紹介する学校支援地域本部事業モデル校区の人吉市二中校区は、人吉市の西部に位置しています。モデル校区の学校は、図1のとおりです。

人吉市二中校区地域教育協議会の立ち上げ

この事業を推進する組織である地域教育協議会を20年8月に立ち上げまし

図2 人吉市二中校区地域教育協議会の構成



た。メンバーは、関係学校長のほか、各種団体代表者で構成され、図2のとおり22人の委員からなります。会議は夜開催し、委員はすべてボランティアで出席してもらっています。20年度は8月から定例会を毎月1回計8回開催し、21年度は、年間5回開催しました。

人よし、活き域、学校応援団 子どもと先生と住民の笑顔の活動を目指して

熊本県人吉市教育委員会

学校支援ボランティアの募集

(1) ボランティア養成講座の開催

この事業の鍵となるのがボランティアをいかに集めるかです。まず、ボランティア募集の前に、地域住民や各種団体を対象にボランティア養成講座を開催しました。講師は県内や地元で活躍するボランティアの活動家をお願いし、好評でした。

(2) 学校支援具体的実践項目の提示

学校が学校支援地域本部事業にどんな支援を求めているかを知るために、各学校の職員の要望等について調査しました。その結果、学習支援・部活動支援・環境整備・安全見守り・不登校対策支援など、予想以上に多くの要望が出ました。この要望を基に、より具体的に、分かりやすく、取り組みやすくするために「学校支援具体的実践項目」37項目に整理し、図3のように構造化しました。これを、募集のチラシ

学校支援活動の試行

と申込書に印刷し、支援できる項目に丸印を記入して提出してもらいました。

平成21年を迎え、学校支援ボランティア登録者が50人を超えたところで、学校支援活動を試行することになりました。

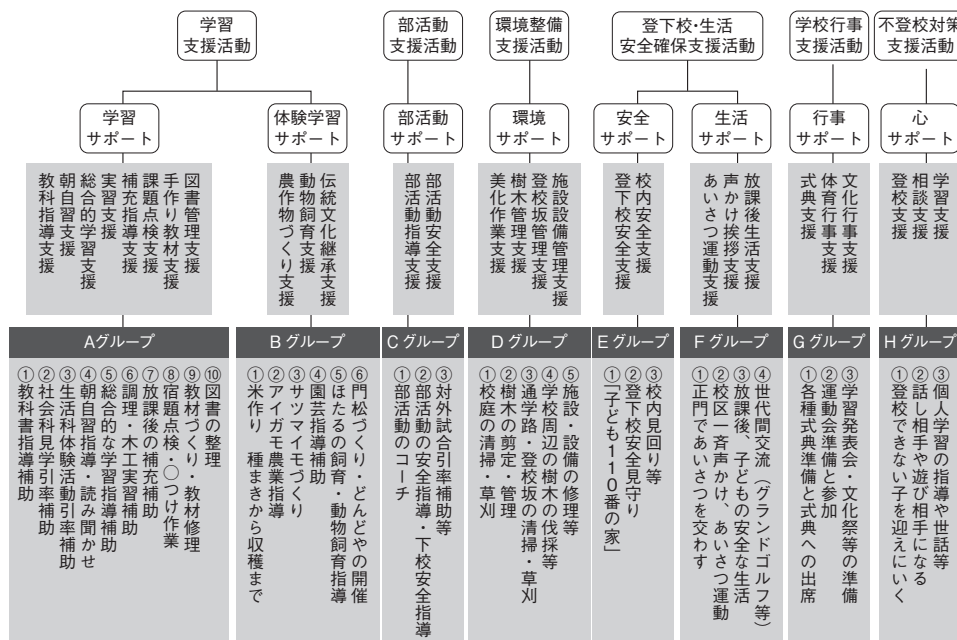
各学校からは、「むかしの遊び」「〇つけ作業」「一斉下校」「あいさつ運動」伝統行事の「どんどこや」等の支援要請があり、そのつど登録ボランティアで対応しました。

例えば人吉西小には、急な登校坂があり、雨の日は笹や木の葉で滑って危険な状態になります。そこで、「竹坂ボラカツ」という清掃グループが15人で結成され、現在も毎週日曜日に活動しています。

平成21年度の取組

(1) 学校支援ボランティアの登録状況
ボランティアの登録者は21年10月に

図3 人吉市二中校区地域教育協議会 学校支援具体的実践事項



(2) 学校支援活動の事例

目標の200人に達しました。年代別では60〜70代が最も多く53%を占めています。支援項目別では、学習支援（80人）、生活支援（71人）、安全確保支援（60人）、部活動支援（42人）となっています。

平成21年度から学校支援活動を本格的に実施しました。各学校からS・Sカード（学校支援要請書）を出しても、支援体制を整え活動に望みまし。おもな活動事例をあげると次のよう活動がありました。

人吉西小では、国宝の「青井神社」



一斉下校支援に出てきたサポーター



ボランティアの集い 懇談会

大祭の準備に地元の子どもとして体験活動をしました。その引率指導にサポーターがあたりました。そのほか、社会科見学や昔の遊び等たて続けに支援活動をしました。

西瀬小では「一斉下校支援」に毎回15人以上が付き添いで参加しています。途中、老人クラブの保安官が見守ります。

中原小では、図書管理のためのデーター入力支援、あいさつ運動、農業支援、放課後の学力充実対策支援などに各サポーターが活発に動きました。

人吉二中では、中学1年の外国少年の読み、書き、計算の学習補充指導に2名のサポーターがあたっています。また、シニア対ジュニアのソフトボール試合や技術指導が楽しい支援活動になっています。

(3) 学校支援ボランティアの集いの開催

21年度のまとめの事業として「学校支援ボランティアの集い」を開催し80人が出席しました。

人吉西小の「竹坂ボラカッ」、西瀬小の「一斉下校 支援活動」、中原小の「アマガモ農業支援」、人吉二中から「マンツーマン学習支援」の取組について発表があり、会員の興味を引きました。その後、グループの懇談会を開催しましたが大

まとめ

21年度の学校支援活動は、従来からのPTAとの共同支援活動（例、農業生産活動）を除き、参加したボランティアの人数は150人あまり、支援活動は延べ270回、活動した延べ人数は、980人でした。学校にも学校支援地域本部事業の活用の雰囲気徐徐に浸透しつつあります。22年度の各学校からの活用計画にも新たな活用計画が目につきます。委託事業3年目を迎え、支援活動の一層の充実とともに将来に向けてのボランティア・グループの自主的な活動の推進に努力したいと思っています。

